

祝 辞

本日、ここ海上自衛隊 第1術科学校 大講堂において、第123期幹部予定者課程卒業式、並びに第78期公募幹部課程修業式が、厳粛に挙行されるに当たり、地元、江田島市民を代表して、一言お祝いの御挨拶を申し上げます。

幹部予定者課程を卒業される皆様、並びに公募幹部課程を修業される さいき 齊木 三等海佐、本日は誠におめでとうございます。また、御家族・学校関係者の皆様方に、心からお祝いを申し上げます。

今、こうして皆様の、規律正しく、凜とした姿を拝見いたしますと、ここ江田島で過ごされた日々は、厳しい中にも達成感を感じられる、充実したものであったと推察いたします。

私は、崇高な使命を担われている海上自衛隊の皆様、心から敬意を抱いております。皆様にはこれからも、旧海軍兵学校の伝統を受け継ぐ幹部候補生学校で学ばれたことを誇りとし、それぞれの専門分野において、豊富な経験を更に活かして御活躍いただきたいと願っております。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境に目を向けますと、北朝鮮においては、朝鮮半島の完全非核化の約束以降、具体的な取組は見られず、核・ミサイルの脅威についての認識に変化はございません。また、中国やロシアといった周辺国においても、軍事力強化や活動活発化の傾向が顕著に見られ、我が国を含む地域・国際社会の安全保障環境への影響が強くと懸念されるところでございます。

こうした中、今、この瞬間も、洋上、海中、空、陸上において、自衛隊員の皆様が、国民の安全・安心のため、懸命に任務に就いていただいていることに、心から感謝申し上げます。

どうか、本日御卒業される皆様におかれましては、この国の将来を担う、立派な指揮官になってくださることを、心よりお祈りしております。

先日、10月28日の自衛隊記念日には、中畑 海上自衛隊第1術科学校長、南 幹部候補生学校長を始めとする海上自衛隊の皆様のご協力により、7月豪雨災害からの復旧・復興に思いを込めた打ち上げ花火を実施することができました。市民を始め、多くの来場者の皆様が、江田島湾の空に打ち上げられた希望の花火の光を浴び、勇気と感動をもらうことができました。ありがとうございました。

また、ここ海上自衛隊は、教育施設でありながら、観光施設としても年間約6万人の観光客を受け入れていただいております。11月25日には、昭和35年の一般公開開始以降、見学者が50万人を突破するなど、全国の皆様と江田島市との縁をつなぐ役割を担っていただいております。地元江田島市にとって、非常に大きな貢献をしていただいております。

皆様御存知のとおり、ここ江田島は、130年前の明治21年に旧海軍兵学校が東京築地から移転し、その後、昭和31年に海上自衛隊をお迎えしてから現在に至るまで、共存共栄、一体不可分の関係で発展しており、自衛隊の皆様との「縁」を大切にしてきた地でございます。

皆様も、江田島市を第二の故郷として、折にふれ訪れていただければ、市民一同、心から歓迎申し上げます。いつの日か皆様とお会いできる日を、楽しみにしております。

結びになります。日本国の繁栄、海上自衛隊の益々の御隆盛、御発展、そして皆様の御健勝と更なる御活躍を、心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成30年12月18日

江田島市長 あき おか しゅう さく 明 岳 周 作